

特別支援教育部会 研究の構想（案）

平成29年度～

I 研究主題

特別な支援を必要とする生徒が個性や能力を最大限に発揮し、進んで社会参加できるための指導はどうあればよいか。

II 主題設定の趣旨

これまで、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導を進めるために、校内支援体制の充実、個別の教育支援計画及び個別の指導計画の活用と見直しの推進、指導過程や評価の工夫等を通して、自立や社会参加を実現するための指導について研究を進めてきた。また、生徒の実態に応じた指導計画に基づく多様な体験活動の場の設定にも取り組んできた。その結果、生徒が生き生きと活動に取り組み、成就感や達成感を味わうことで自己の能力や可能性を伸ばし、生きる力を高める実践が行われ、多くの成果を取めることにつながった。

一方、特別支援教育を取り巻く社会情勢は大きく変化している。平成29年3月に告示された新学習指導要領では、障害のある生徒等について学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うことと明記された。また、生徒一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導や支援ができるように、各教科等においても配慮事項が示された。

そこで、これまでの成果を生かしながら、さらなる支援体制の充実、個別の教育支援計画及び個別の指導計画の効果的な活用の推進、指導過程や評価の工夫等を通して、生徒がその個性や能力を最大限に発揮し、自立や社会参加を実現するための指導についての研究を進めていきたい。

III 研究のねらいと内容

1 研究のねらい

特別な支援を必要とする生徒が個性や能力を最大限に発揮するために必要な指導の在り方について研究を進める。

2 研究内容

- (1) 生徒が個性や能力を最大限に発揮するための支援体制を充実する。
 - ・校内委員会を機能させた支援体制の充実と、合理的配慮の共通理解
 - ・個別の教育支援計画を活用した幼・保、小、中、高等学校間での連携
 - ・家庭や地域社会、関係機関（教育、福祉、医療等）との連携
 - ・計画的、組織的に取り組む交流及び共同学習の推進
 - ・特別支援教育に関する校内研修の充実
- (2) 生徒が個性や能力を最大限に発揮するための教育課程を編成する。
 - ・障害の状態や発達段階の的確な把握
 - ・生徒の教育的ニーズに応じた教育課程の編成
 - ・個別の教育支援計画及び個別の指導計画の定期的な見直しと指導の充実
- (3) 生徒が個性や能力を最大限に発揮するための指導過程や評価を工夫する。
 - ・主体的に取り組む単元や題材の開発
 - ・意欲を高める効果的な教材・教具の開発
 - ・生徒の思いや願いを生かし、成就感や達成感を味わえる学習活動とその評価の工夫

特別支援教育部会 平成30年度研究計画（案）

I 研究主題

特別な支援を必要とする生徒が個性や能力を最大限に発揮し、進んで社会参加できるための指導はどうあればよいか。

－生徒が成就感や達成感を味わえる学習過程の工夫－

II 主題について

これまで、生徒の自立や社会参加を目指し、生活に生かすことのできる基礎的な知識及び技能を身に付けるために、個別の教育支援計画及び個別の指導計画に基づいて、一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実を図るための実践的研究を進めてきた。

具体的な取組として、

- ・個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成・活用と評価に関する情報交換や研修
- ・人と関わる体験を通してコミュニケーション能力を高めるための指導の推進
- ・生活と関連付けた単元構想・指導過程の工夫
- ・一人一人の学習を支援するための、教材・教具の開発や指導法の工夫

等が挙げられる。実践的研究では、一人一人の個別の指導計画に基づいた目標や指導内容を明確にし、自分の思いを素直に表現できる場の設定・工夫、伝えたい事柄や内容を選択できる場の設定・工夫をすることで、生徒が成就感や達成感を味わい、自己肯定感を高めることにつながった。

今年度は、これまでの成果を踏まえながら、さらに生徒が成就感や達成感を味わうことができる学習過程を工夫することで、一人一人の個性や能力を最大限に発揮し、進んで社会参加できると考え、標記の研究主題を掲げた。

III 研究内容とその視点

1 校内支援体制の充実

- (1) 特別支援教育コーディネーターが中心となって校内委員会を企画・運営し、提供できる合理的配慮の検討等を行うとともに、生徒の実態把握や支援のための方策について、本人・保護者との合意形成を図る。
- (2) 特別な支援を必要とする生徒の実態を的確に把握し、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成・活用し、全教職員の理解と協力のもと、校内支援体制を充実する。
- (3) 教育活動全体を通じて、交流及び共同学習に計画的、組織的に取り組み、生徒同士の相互理解を深め、共に生きようとする心や態度を育む。

2 教育課程の編成

- (1) 一人一人の個性や能力に応じた長期的・短期的な視点に基づく指導目標を設定し、適切な指導内容や指導方法を吟味した個別の指導計画を作成し、時期を明確にした見直しを行う。
- (2) 一人一人の教育的ニーズを把握し、自立活動を効果的に取り入れたり、各教科の内容を替えたりするなどして、生徒の実情に応じた柔軟な教育課程を編成する。
- (3) 将来の自立や主体的な社会参加を目指し、卒業後の進路についての知識を深め、働くことへの興味・関心や意欲を高めるために進学先として考えられる学校の見学や職場体験を含めた学習を年間計画に適切に位置付けたキャリア教育を推進する。

3 指導過程の工夫

- (1) 生徒一人一人の個性や能力を最大限に引き出すため、単元・題材及び教材・教具の開発により一層努める。
 - ・生活に結びついた実践的・体験的な活動の工夫
 - ・生徒が主体的に取り組む単元や題材の開発
 - ・一人一人の教育的ニーズに応じた教材・教具の開発
 - ・学習の効果を高めるためのICTの活用

(2) 生徒が興味をもって主体的に取り組み、成就感や達成感を味わうことができるような場の設定・工夫を推進する。

- ・一人一人が自分の興味・関心や意欲、可能性に着目し、最後まで粘り強く活動に取り組むことができる場面の設定
- ・学校で身に付けたことを日常生活で実践できるための単元構想の工夫

4 評価の工夫

(1) 生徒が成就感や達成感を味わえる評価をさらに工夫する。

- ・生徒自身が学習の成果を実感し、成就感を高めることができる自己評価
- ・友達のよさを認め、互いに高め合うことができる相互評価
- ・教師が一人一人のよい点や可能性、達成状況等を認め、その後の学習や発達を促すことができる個人内評価

(2) 指導の改善に生かす評価をより一層工夫する。

- ・指導目標の達成状況を的確に把握することによる、個別の指導計画の見直し、及び指導内容、指導方法の改善に結び付く評価
- ・一人一人の指導過程や学習の成果が確認できる評価資料の累積と活用

5 家庭や地域社会、関係機関との連携の推進

(1) 保護者との情報交換を密にし、意思疎通を十分図りながら、自立への支援や適切な進路指導をさらに進める。

(2) 地域の人々との交流の機会を設け、特別な支援を必要とする生徒への正しい理解と認識を促す。

(3) 幼・保、小、中、高等学校及び関係機関（教育、福祉、医療等）と連携し、適切な支援の継続を図るためのネットワークづくりを推進する。

IV 研究方法

県中教研の研究主題の趣旨に沿って、各郡市中教研で自主的に研究主題を設定し、研究を推進する。

- ・各学校で、研究主題に沿った計画を立て、実践を通して研究主題の解明に当たる。
- ・各種の研究會等へ積極的に参加し、専門的な知識や技能の向上に努める。
- ・他校や郡市・地区間の連携を図り、情報交換を通して研究を推進する。
- ・地域の特別支援学校や幼・保、小、中、高等学校及び関係機関との連携を深める。
- ・全教職員が一人一人の教育的ニーズに応じた指導の在り方についての研修を深める。

